

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：ツノナスの早期出荷技術の開発			
<p>[要約] 2月上旬に播種し4月中旬に定植して、開花後6週間以降に一斉摘葉すると、9月中旬までに6段着果及び着色したツノナス切り枝を出荷できる。また、2本仕立にすることで早期に収穫できる。</p>			
キーワード [※] ツノナス、カナリアナス、播種、仕立本数、摘葉			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・暖地園芸研究所・野菜・花き研究室 協力機関 安房農林振興センター		
実施期間	2008年度～2010年度		

[目的及び背景]

安房地域では水田転作作物としてツノナスが栽培されている。ツノナスの切り枝は、果実が6段以上着果し、各段にバランス良く着果したもの（2L規格）が最良とされ、また9月の彼岸までに出荷されたものは高単価で取引されている。一般的な栽培は2月播種で4～5月に定植し、3本仕立とする。しかし、早期の収穫では着果・着色不良や果実の肥大不足等の品質低下が問題となっており、出荷時期が9月下旬以降に遅れる場合も多い。ツノナスの播種・定植時期と収穫時期の関係を明らかにするとともに、仕立て方法の改善によって、早期出荷及び品質向上技術を確立する。

[成果内容]

- 1 1月中旬播種から2月上旬に播種すると、6段着果した切り枝が9月中旬までに半数以上を収穫することができる。これより播種が遅れると9月下旬収穫のものが多くなる（表1）。
- 2 2月上旬播種、4月中旬定植の場合、各段の開花は2本仕立が3本仕立より2～3日早まり（データ略）、6段着果した切り枝の収穫時期は、2本仕立で9月上旬の収穫本数が多くなる（表2）。
- 3 果実の着色に伴い順次摘葉または開花後6週間以降に摘葉すると、6段着果した切り枝を9月中旬までに収穫が可能である（表3）。

[留意事項]

試験は館山市で実施したが、気象や圃場条件等が合えば、他地域でも本情報を活用できる。

[普及対象地域]

安房地域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 ツノナスの播種期が収穫時期に及ぼす影響

試験区	(播種日)	(定植日)	収穫本数(本)				
			9月上旬 (9/1~9/10)	9月中旬 (9/11~9/20)	9月下旬 (9/21~9/30)	10月上旬 (10/1~10/10)	10月中旬 (10/11~10/20)
1月中旬	平成21年1月16日	4月6日	7	13	4	0	0
	平成22年1月15日	4月9日	6	12	2	0	0
2月上旬	平成21年2月1日	4月17日	5	11	9	1	0
	平成22年2月1日	4月19日	2	20	2	1	1
2月中旬	平成21年2月16日	4月23日	2	4	14	3	2
	平成22年2月15日	4月26日	3	12	7	0	0
3月上旬	平成21年3月2日	4月28日	0	11	12	4	0
	平成22年3月1日	4月30日	3	11	8	2	0

注1) 各試験区で切り枝27本を調査対象としたが、栽培期間中に折れた枝は調査外とした

2) 仕立本数は3本とした

3) 試験地：館山市

表2 ツノナスの仕立本数が収穫時期に及ぼす影響

試験区 (仕立本数)	収穫本数(本)			
	9月上旬 (9/1~9/10)	9月中旬 (9/11~9/20)	9月下旬 (9/21~9/30)	10月上旬 (10/1~10/10)
3本仕立	3	17	4	0
2本仕立	7	15	1	1

注1) 3本仕立区は8株、2本仕立区は12株、各試験区で24本調査した

2) 播種2月1日、定植4月19日

3) 栽植密度：3本仕立区は株間100cm×条間200cm、

2本仕立区は株間67cm×条間200cm

表3 ツノナスの摘葉時期が収穫時期に及ぼす影響

試験区		収穫本数(本)				
適葉方法	摘葉時期	9月上旬 (9/1~9/10)	9月中旬 (9/11~9/20)	9月下旬 (9/21~9/30)	10月上旬 (10/1~10/10)	10月中旬 (10/11~10/20)
一斉摘葉	開花後4週間	7	4	1	5	5
	開花後6週間	8	14	1	1	0
	開花後8週間	2	21	1	0	0
順次摘葉		2	19	1	1	1

注1) 各試験区で切り枝24本を調査対象としたが、栽培期間中に折れた枝は調査外とした

2) 開花日は6段目の第1花の平均開花日の7月15日とし、試験区ごとに一斉摘葉した

3) 順次摘葉区は各段の果実が黄化し始めたのを確認し、段ごとに摘葉した

4) 播種2月1日、定植4月19日

5) 仕立本数は3本とした

[発表及び関連文献]

1 平成23年度試験研究成果発表会(花植木部門)

[その他]